



Japan Intellectual Property Association

Special INTERVIEW

松永 明 氏 特許庁長官

JIPA TOPICS

WIPO GREEN参加へのお誘い

WIPO グローバル・チャレンジ部 ディレクター
Marion (Amy) DIETTERICH 氏

ZOOM UP

会誌広報委員会

JIPA通信

シンポジウムの告知



**WINTER
2020
VOL.12**

昨年7月に就任された松永特許庁長官に経歴を踏まえた技術と知財に対する考え方について萩原副会長がインタビューを行った。

知財権で技術を守る重要性

萩原 経済産業省や中小企業庁などで勤務されたご経験を踏まえ、特許庁長官就任後のお気持ちをお聞かせください。

松永 経済産業省では、通商産業省の時代を含めると約33年間勤務していますが、職員として技術の重要性を強く認識していました。技術自体の価値が日本経済を支えていると思っているからです。技術を強くしていくためには、しっかりと知財権によって技術が守られるということが必要だと思います。特許庁長官に就任して、その重要性を再認識しました。

萩原 ご自身と技術との関わりについて、お聞かせください。
松永 過去に、ある大学の教授を務めたことがあり、産学連携のためにTLO(技術移転機関)の立ち上げに関わりました。大学の先生方が行っている研究から生まれた技術が製品に活用される過程を見ることができ、このような技術が日本を支えているのだと非常に心強く思っていました。

日本の技術力のポテンシャルを知財権で守る

萩原 日本再興戦略の策定に

も携ったと伺っています。

松永 経済産業省の研究会ではAI/IOITについて取り上げました。その内容は、2015年の日本再興戦略に取り入れられました。その際、大勢のAI/IOIT研究者に話を伺う機会があり、GAF Aのプラットフォームとしてみたときの強さを認識しましたが、日本の研究者も、非常に優れた技術力のポテンシャルを持っていると実感しました。それを実際の経済・産業活動に結びつけて、競争の激しい世界の中で、利益を生み出すだけでなく社会に役立つものを創り出すことをどうやってサポートできるかを考え続けています。

最近の話題では、地域経済を支えている地域未来牽引企業というものがあります。法律に基づいて選定された、地域を牽引していく中堅企業です。中小よりもやや大きい規模の企業の活動を奨励する経済産業省の政策で、私も担当しました。高い技術力を持つ中堅企業はたくさんあり、うまくニーズと結びつけると大化けします。大企業だとなかなか手を出せない規模の市場で、人々に役立つような技術で事業を展開している中堅企業の存在を知ると、



Special INTERVIEW No.012

日本経済を支える技術を知財権で守る。 特許庁は日本の産業振興のために JIPAと連携し知財環境を整備する。

松永 明氏 Akira MATSUNAGA (写真右)
特許庁長官

萩原 恒昭 Tsuneaki HAGIWARA (写真左)
日本知的財産協会 副会長/凸版印刷株式会社 法務・知的財産本部 顧問

技術の重要性に改めて気づかされます。

萩原 スタートアップや中小の企業では、自分たちの技術を確立して広く使ってもらうことに精一杯で、その技術を知財権で守るところまで手が回っていないことが多いようです。

松永 特許庁では「知財総合支援窓口」を全国の都道府県に設けており、知財に関する問題に直面する前でも後でもサポートを行っています。JIPAにも支援いただいております。弁理士などの専門家を派遣していただきます。

多国間での議論がより重要に

萩原 特許庁での最近の活動について、お聞かせください。

松永 特許庁に来て、多国間での議論の場が多いことを再認識しました。日本企業が海外で事業展開しやすいように、我々も様々な国の機関と議論をして、グローバルな知財環境の整備を進めたいと考えています。中国が知財でも存在感を強める中、IP5(日米欧中韓の特許庁会合)の場はますます重要になります。日本企業にとつて中国は重要な市場の一つですので、中国とは引き続き日中韓長官会合、IP5やID5(意匠五庁)、TM5(商標五庁)など様々なルートで話し合う機会

を持ちたいと思っています。また、AI/IOIT時代に即応した知財制度を構築するとともに、事例紹介等を発信し、世界の議論をリードしていきたいと思っています。

JIPAへの期待

萩原 特許庁として、JIPAに期待することがあればお聞かせください。

松永 WIPO(世界的知財機関)総会などの会合で、JIPAの皆さんがいかにより良い知財制度の構築のためにご尽力いただいているかを改めて認識しました。JIPAが、様々な立場の意見を誠実にしっかりと汲み取ってまとめていくという取り組みを粘り強くやっていくことが、世の中の大きな流れを変えていく上で大切だと思いました。JIPAが、産業界の意見を代表しており、また特許庁としっかりと意見交換していると言えることが、日本の発言力を強くする意味でもとても重要だと考えております。引き続き、産業界の意見を集約・調整してもらおうことをお願いしたいと思います。特許庁もJIPAと連携を取り、特許庁での施策検討を深めていきたいと思っています。



WIPO GREEN参加へのお誘い ～知財をSDGsのために役立てる～



世界知的所有権機関(WIPO)グローバル・チャレンジ部 ディレクター Marion (Amy) DIETTERICH 氏

東西部会での講演

10月度の関東部会と関西部会において、エイミーさんによりWIPO GREENの現状と新しい戦略計画が紹介されました。

エイミーさんの講演では、特にWIPO GREENへの参加の意義が強調されました。それは知財部門が直接、SDGsに貢献できる非常に有効な場であることです。さらに、WIPO GREENを通じて自社が環境問題に取り組んでいる企業であることを国際社会に無償でPRできると共に、そのマーケットプレイスを通じて、世界の大きなネットワークにつながることを、協力者や投資家、潜在的なライセンサーを知ることや、WIPOの行うイベントや展示会に参加する機会が与えられることです。

JIPAの貢献

WIPO GREENは、2009年にJIPAが基本的なプランをWIPOに提案し、その後、JIPAのGTPP(グリーンテクノロジー・パッケージ・プログラム)プロジェクト(現在は解散)とWIPOのグローバル・チャレンジ部の共同研究により詳細設計がなされ、2013年に正式にスタートしました。

現在までに5年経過しその間の活動成果を踏まえて、WIPOは今年から新たな5年の戦略計画を実行しています。

WIPO GREENとは

技術提供者と技術供与者の間のマッチングの場を提供し、環境技術が世界に普及すること後押しをすることが目的です。これまでに登録されている技術は3,500件以上あり、データベースへのアクセスやイベントによって600件以上のコネクションが構築されています。また全米の大学の技術データベースや企業HPに掲載されている知財情報へのリンクをしています。新しい戦略計画はデータベース機能の強化、環境技術登録を増やすこと、マーケティング機能の強化などが中心です。

WIPO GREENへの参加のしかたはとても簡単で、たんにWIPO GREENのサイトで自社がライセンスできる技術の要点を書くだけでいいのです。特許権があってもなくても構いません。またライセンス契約自体は、申し込みがあってから、交渉により決めればよく、そこでの対応は通常のビジネス交渉と同じですので、ライセンスできるという姿勢を示すということです。

新たなチャレンジ

今回のエイミーさんの来日は、その内容を紹介することと、もう一つJIPAが現在行っている新しい検討内容についてJIPAと意見交換をすることが目的でした。

JIPAが現在検討しているのは、環境技

術別にパテントプールを作ったらどうだろうかというものです。

パテントプールは歴史的には技術の普及の一つの手段として使われてきました。これは各社が保有している一定の特許をあたかもプールに入れるようにしてまとめておき、ワンストップでライセンスができるようにする仕組みです。20世紀初頭には自動車や航空機、後半にはITの標準化と普及のために多く作られ、現在は食糧やバイオテクノロジーの分野で注目されています。そのメリットは、ライセンサーにとっては個別交渉の負担を省けることになり、ライセンサーにとっては複数企業の一定の範囲の特許を合理的で安い使用料で使うことができるようになります。これにより環境技術分野に大手企業だけでなくベンチャーも参入しやすくなることが期待できます。

SDGsに向けて

知財制度はこれまで産業の発展に寄与していますが、逆に作用することもあります。ある企業がいい技術を生み特許をとっても、もしビジネスの利益が見込めないときには、その特許は使われず、その特許のせいで世界の誰も技術を使えない状況が20年間も続くのです。もしそれが、温暖化阻止に役立つ技術であればどうでしょうか。

我々知財を専門として仕事をする者は、この問題を考えなければなりません。知財は技術を共有するためにも機能します。

2020年のWorld IP Dayのメインテーマは“Innovation for a Green Future”に決まりました。WIPO GREENは、このイベントの中心の役割を担い、世界150カ国以上でのキャンペーンが予定されています。

JIPAもこれに協力する予定です。

久慈 直登 Naoto KUJI
日本知的財産協会 専務理事





来たれ！会誌広報委員会へ！

私たち会誌広報委員会は、当協会の専門委員会の一つとして、協会の機関誌「知財管理」と広報誌「季刊じば」の編集をミッションとしています。

「知財管理」の編集では、記事の企画と、掲載に向けた査読を行っています。記事の半数は私たちが企画しています。知財業界での最新の話題やセミナー、日常業務での疑問などを参考に各委員が企画を立案し、委員会での審議で、論点の追加や、より適切な執筆者などのアドバイスを受けた上で、執筆候補者と面談を行い、執筆を依頼します。面談を通じて著名な弁護士・弁理士と人脈形成できることが当委員会の魅力の一つです。

査読については、一般の知財部員の目

線で原稿を確認しており、もっと詳しく説明して欲しい部分の加筆、専門用語の説明追加、冗長な表現の削除などを依頼しています。査読を通じて、文章の校正能力や、ロジカルな文章を作成する能力が身につきます。広範な記事に触れるので、担当業務以外の法域も含め、知財全般に関する幅広い知識が得られます。

「季刊じば」の編集では、インタビューや執筆の依頼先選定、質問事項の提案、インタビュー記事の作成、各記事の査読



松永特許庁長官(右から4人目)インタビュー

を行っています。特許庁長官や知財高裁所長、各社の知財部門長にお会いすることも多く、そうした方々の考え方や問題意識に触れる貴重な機会が得られます。

会誌広報委員会では、会員企業の皆様には有益な情報を提供すべく、全力で取り組んでいます。私たちと一緒に「知財管理」「季刊じば」を編集してみませんか！

委員を派遣する上司の皆様にも、人材育成上、多くのメリットがあります。著名な弁護士・弁理士との人脈や、企画力、文章力、知財に関する幅広い知識が得られるのは当委員会ならではの強みです。委員本人には、協会の研修を無償で複数回受講可能という特典もありますので、是非、応募をご検討ください。



鹿嶋 慎一郎
Shinichiro KASHIMA

日本知的財産協会 常務理事
中国電力株式会社 エネルギー総合研究所 知財部長

機関紙、広報誌とも発行に穴をあけるわけにはいきませんので、先々の発行に向け、締切りと記事内容のクオリティを意識し、委員長以下皆さん一丸となって活動され心強い限りです。業種も知財に関する専門知識も異なるメンバーで構成され、企画立案、和気あいあい・自由闊達を旨とした全員参加型議論で企画案の論点を深めていく過程は、各派遣元での仕事の取り組みにも好影響を与えるものと確信しております。会誌広報委員会の新しい仲間として参画していただくことを心待ちにしております。

JIPA通信 JIPA知財シンポジウムの告知

2月20日(木)、東京国際フォーラムにて、《第19回JIPA知財シンポジウム》を開催します。第四次産業革命による産業構造転換とグローバル化が加速する中、米中貿易摩擦・Brexitなど反グローバル化の動きが交錯し、令和時代は予測困難な幕開けとなりました。そこで「令和時代の知財課題とグローバル知財戦略」を主テーマに掲げ、欧米日グローバル企業のIPTOPによる座談、WIPO Gurry事務局長の任期最後となる講演、JIPA会員同士の現場感溢れる討議等、「JIPAならではの」企画しました。ポスター発表の初PR動画にもご注目。是非ご参加を。

<https://www.jipa.or.jp/form/19sympo.html>



表紙の写真は…

「The 新幹線」

元 本田技研工業株式会社
知的財産・標準化統括部 森本 一

前回の東京オリンピック開催に合わせ昭和39年に開業以来、走り続けてきた新幹線。世界に誇れる技術の塊と言っても過言ではありません。JRのほか、製造するメーカーも含め多くの特許が登録されています。技術は進化し続け、新型N700Sへの進化やリニア中央新幹線の実現へと期待が膨らみます。

N700Sは、万が一停電に遭遇した場合、搭載バッテリーによって架線の電力を使用せずに乗客の避難が容易な場所までの低速での自力走行が可能です。技術、安全を含めてしっかり知的財産で固め世界へ発信していきたいですね。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を[会誌広報グループkikansi@jipa.or.jp宛](mailto:kikansi@jipa.or.jp)てにお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。

季刊じば Vol.12
WINTER 2020
2020年1月15日発行

編集人： 一般社団法人 日本知的財産協会 会誌広報委員会
発行人： 一般社団法人 日本知的財産協会内 久慈 直登
<http://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa.html>
印刷&DTP： NPC 日本印刷株式会社